

学校名 学校法人岩尾昭和学園 昭和学園高等学校

平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成

－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －

2. 研究の目的

社会で看護師として働く為には、基礎学力、専門知識技術とそれらを生かす能力「社会人基礎力」が必要となる。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていくものである。5年一貫の看護教育を通して、高校生が主体的に学び、専門性と社会性を身に付け、人間として成長できるよう支援するプログラムを開発する。

3. 実施期間

契約日から平成29年3月15日まで

※ 最長で当該年度の3月15日（3月15日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

地域社会に貢献できる看護師とは、社会人基礎力が備わった状態と考える。地域社会に貢献できる看護師を育成するために、「豊かな人間性」「課題解決能力」「社会人基礎力」の3つの柱で様々な取組みを行う。5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポートするため、社会人基礎力が備わるための取組みを実施し評価・修正しながら研究をすすめる。

今年度は、看護学生としての地域貢献をさらに意識して取組む。対象は看護学科であるが、学校全体の取り組みとしていきたい。

－ 育成する人材像／目標 －

1. APU国際学生や異学年との交流等を通し、文化や価値観等の多様性を理解し、豊かな人間性を養う。

<主体性・協調性・自己肯定力・倫理性>

①交流で失敗を恐れず、一步踏み出すことができる。

②交流のための準備を主体的に行い、グループメンバーと協力して取組む。

③他との交流等を通し他者理解につとめ、他者を尊重した適切な行動ができる。

④グループでの自分の役割を理解し行動する等の中で、自己理解を深め自己肯定感を得る。

2. 専門の知識・技術を身につけ、課題を解決できる能力を養う。

＜課題発見力・計画性・創造力＞

- ①アクティブラーニングにより、目的をもって能動的に学習する。
- ②能動的な学習を通し、自ら考え、課題を探求し、解決していく。
- ③何事にも興味を持ち、課題を明らかにし解決に向けた計画を創造し取り組む。

3. 地域との交流やボランティア活動に主体的に関わり、社会人基礎力を身につける。

＜発信力・自己管理能力・ストレスコントロール力＞

- ①目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動し、自分の役割を果たす。
- ②自分の意思をわかりやすく伝え、周囲との関係を理解し活動していく。
- ③自己管理能力を高め、社会のルールや約束を守る。
- ④ストレスに対し向き合い解決につとめる力、ポジティブに捉える力を身につける。

豊かな人間性

看護師は、多様な価値観を持った対象者に対応するために、豊かな感性を持ち、対象に関心を寄せ、積極的に関わる能力が必要である。他者を尊重し、絶えず相手の立場にたって物事を考え行動する等の倫理観を育成し、更に生徒・学生の成長に伴って向上することをねらいとする。また、立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生・異学年との交流や活動を通し、文化や価値観の多様性を理解し、豊かな人間性を養うことをねらいとする。

＜活動の概要＞

a. 人権教育（1～5年）… ナイチンゲール生誕祭は新規

1～5年生の各クラスで行う宗教の授業、学校行事である校父母祭法要等を通し生命や死について考える機会とし、自他共に尊重し、自分の人権及び他者の人権を守ることができる生徒を育成する。学校行事を企画運営する特活主任や宗教科教員と連携して取り組む。また、看護学科で行うナイチンゲール生誕祭を通して、看護師を目指す自分を振り返り意識を高める機会とする。

b. 異学年交流（1～5年）

- ①1～3年生交流会
- ②1～3年縦割りグループによるグループ活動
- ③1年生が臨地実習前に3年生と交流
- ④2年生が病院実習前に3年生と交流…新規
- ⑤1年生が5年生の指導を受け1年他クラスへ手洗い指導実施

上記の活動を通し、リーダーシップやメンバーシップを育成する。その結果、チームで働く力（チームワーク）を高めていく。また、自己の目標や果たすべき役割を理解する。

c. APU国際学生との交流（2年）

APU訪問やAPU国際学生を本校に招待し交流することを通し、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生に対して、出来るだけ英語でコミュニケーションを図ることに挑戦させたい。そして、積極的に相手を知ろうとする努力や自分を知ってもらうための工夫ができることを期待する。学生の英語によるコミュニケーション能力を向上させるために、英語科教諭に協力を求め取り組んでいく。交流後は、グループ毎に交流の様子や感想を模造紙にまとめ、国際看護を学ぶ5年生に発表し、学びを共有する。学校に招いた際は校内見学、看護の体験をしてもらい、

調理科生徒が実習で作った昼食を提供し一緒に食べるなどして交流する。製菓コースの生徒が製作した菓子を渡す等、他科の生徒も交流に関わってもらう。

<活動のねらい>

	人権教育	異学年交流	国際学生との交流
1年	「生」と「死」について考え、今を大切に生きることを意識する。自己理解に努める。	相手の意見を丁寧に聴く力及び自分の考えを相手に伝える力を育てる。	
2年	他者理解に努める。また、他者との関わりを通して、自己の振り返りを行い、自己理解を深める。	他者を尊重することの大切さや、自分の考えをわかりやすく他者に伝える力を育てる。	A P U国際学生と交流を図り、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生の多様な価値観を知り、他者理解に努める。
3年	他者を尊重するだけでなく、自分自身も大切にすることができる。	基礎課程の最高学年としてリーダーシップをとり、グループ活動を進めることができる。	
4年	生命誕生から死に至るまでの倫理的問題について考え、自分の考えを表出することができる。	意見の違いや立場の違いを理解し、他者と協力して課題に取り組むことができる。	
5年	臨地実習において、倫理観や看護観に基づいた看護を実践する。	最高学年として、リーダーシップを発揮し、下級生に対してモデル行動を示すことができる。	A P U交流での学びを聞き、多様な文化や価値観を知り、他者を尊重し相手の立場にたった行動ができる。

課題解決能力

これまでは、講義・演習ともに教員主導による授業を行っていたのが大半だった。昨年度から反転授業やシミュレーション教育を取り入れて、教員の授業に対する意識を改善して生徒や学生が主体的な学びができる授業の取組みを行った。取組み後は授業に積極的に参加し、内容の理解が容易となり充実感を得た者が多くなった。また、学習時間調査結果より家庭学習時間は増えているが、定期考査期間以外の日常の学習時間が少ないことが明らかになった。新しい学びを知識として取り入れていくには、既にもっている知識と関連づけることが大切になる。事前学習や事後学習をする習慣が身に付けば知識は定着して学力は向上すると考える。

今年度は、さらに活動性を高める授業づくりを目指して、アクティブラーニング（反転授業・シミュレーション教育・協同学習）を取り入れた指導法を行い、生徒や学生の知識や技術の向上だけでなく、主体的に学ぶことで学ぶことの楽しさを感じながら学習をすすめることで、学習意欲の向上につながることを目指す。

また、自分と異なる価値観や興味をもつ仲間と一緒に学習を行うことで学びの幅は広がり、より深い学習になる。論理的思考に基づく言語技術（聴く・話す・読む・書く・看る）の獲得を目指し、

思考力や判断力、そして表現力を高校の早い段階から学び身につける事で、自らの課題をみつけ課題を解決する力につながることをねらいとする。

<活動の概要>

a. アクティブラーニング

反転授業や協同学習、シミュレーション教育を取り入れて、専門の知識・技術を身につける。主体的に学習に取り組み、自ら考えて行動する（活動する）ことで自分の課題に気づき、自己の目標の明確化ができ課題を解決できる能力を養う。また、課題解決能力を身につけるためには、物事の捉え方や考え方などの思考力や判断力を育むことが必要となる。自分の思いを自らの言葉で表現することが苦手な生徒も多く言語技術の獲得を目指す。

1) アクティブラーニングを取り入れた授業の実施（1年～5年）

基礎・専門課程における看護教科（全科目）において実施する。演習ではタブレットを活用して振り返りを行う。また、グループ活動を通して協力して意見を出し合い創意工夫した取り組みを行う。

2) 研修

①高校1・2年生：「仲間と共に伸びる学び方」／安永 悟先生（久留米大学）…新規

②教員研修

1. 講師招聘による研修…新規

講師：安永 悟先生（久留米大学）による教員研修を2回実施。

内容：「アクティブラーニングと協同学習」

研修後は、本校の教員が授業に取り入れて実践し、再度、安永先生による研修を受けて指導をいただく。

2. 外部研修

内容：「今どきの若者の論理的思考力を高める教育法」

b. 特別講義

1年生の看護への関心を高める工夫として、1学期に様々な場で活躍している看護職者の職場の紹介・やりがい・今後の希望などの話を聴講する。

実習病院や地域で活躍している認定看護師から講義を受けて、専門的な知識を身に付ける。また、自己の目標を明確にして、目標達成に向け意欲的に学習することにつながる。

1年：看護専門職者の話を聴く会

1年：基礎看護「感染管理認定看護師による特別講義（標準予防策、手指消毒法）」

2年：基礎看護「皮膚・排泄ケア認定看護師による特別講義（皮膚の生理機能をふまえた清潔の援助）」…新規

<活動のねらい>

	アクティブラーニング	特別講義
--	------------	------

1年	<p>事前課題に取り組み主体的に演習を行い、楽しく学ぶことを体験する。タブレットを活用し、撮影した内容を視聴することで振り返ることができる。</p> <p>論理的思考について授業を受け、思考力や表現力を身に付ける。</p>	<p>看護専門職者の話を聴く会</p> <p>第一線で活躍している看護職者の話を聞き様々な看護活動の場があることを知り、看護への関心を高める。</p> <p>感染看護（手指消毒法）</p> <p>感染管理認定看護師より標準予防策や手指消毒法についての講義を受け、正しい手洗いの方法を理解し実践することができる。また、手洗い評価キットを活用して手洗い方法を見直すことができる。講義後は、正しい手洗い方法を同学年の生徒に説明することができる。</p>
2年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み、演習を行う。</p> <p>タブレットを活用して看護技術を振り返り、グループワークで自己の課題を知り、学びを深めることを経験する。</p> <p>論理的思考について授業を受け、思考力や表現力を身に付ける。</p>	<p>スキンケア</p> <p>病院実習前に皮膚・排泄ケア認定看護師より、皮膚の生理機能をふまえた清潔援助の方法について講義を受け、理解を深める。病院実習で行う清潔ケア（清拭・足浴・手浴）につなげることができる。</p>
3年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み演習を行う。</p> <p>タブレットを活用して看護技術を振り返り、グループワークで自己の課題を知り、課題解決に取り組むことができる。また、事例を通して援助を考えることができる。</p>	
4年	<p>主体的に事前課題に取り組み演習を行う。タブレットを活用して看護技術を振り返り、課題解決に向けて最善の解決方法を見出し、取り組むことができる。また、事例を通して優先度をふまえた看護援助を考えることができる。</p>	
5年	<p>主体的に事前課題に取り組み、状況を判断し対象に適した援助について、既習の知識・技術を活用して思考・判断し、課題解決を図る。シミュレーションにおいて、症例に合わせた優先順位を考えて、さまざまな問題に対処できる力を養う。</p>	

社会人基礎力

経済産業省が発表した多様な人々とともに仕事をしていくために必要な力と定義される「社会人基礎力」に注目し、社会人基礎力の育成に取り組んできた。社会人基礎力の中で特に「発信力」「自己管理能力」「ストレスコントロール力」が高まることを目指し、様々な取り組みを行った。

今年度は、昨年の取り組みを整理し、更に「健康ひた21」を推進するために健康教育に力を入れ

る。また、4月には、SPHの取組みを始めた最初の卒業生が就職した。学校と異なる新しい環境の中で、困難な出来事に向き合っているか、学生時代身につけた社会人基礎力が発揮できているか等、卒業生の社会人基礎力調査を実施する。

<活動の概要>

a. 調査

①在校生の社会人基礎力調査（1～5年）

5月下旬と1月の2回、能力要素の自己評価を行い、変化を調査する。SPH事業の有効性を検証するために普通科クラスも調査し比較する。

②卒業生の社会人基礎力調査（平成27年度3月卒業者） …新規

卒業生は、臨床の場で、挨拶や仕事の準備を自ら進んで行っているか（主体性）、あるいは先輩看護師や他職種に自分の考えを伝えているか（発信力）等、社会人基礎力が備わっているかまた発揮できているか等社会人基礎力の能力要素について、自己評価と他者評価（管理者）で調査する。臨床に出た本校卒業生の傾向を明らかにし、在校生の指導につなげる。

③家庭における生活習慣調査（1～5年）

基本的な生活習慣やマナーは、全ての活動の基盤である。その上で、基礎学力や専門知識と社会人基礎力が影響し合って高まっていくと考える。そのため、1～5年生の生活習慣を調査し、保護者と連携して基本的な生活習慣が整うことを目指す。

b. キャリア講座（5年）

看護師として働く自分や卒業後の生活をイメージし、目指す将来像に近づく様に努力するきっかけ作りのため今年度も実施する。昨年2時間で行い、やや慌ただしかったため、今年度は時間を増やして実施する。

c. ボランティア活動（1～5年）

地域で行われている取り組みに関心を寄せ、学生の段階から地域に貢献できる人材を育成する。活動では、自己の役割を意識して行動することを目指す。その結果、達成感や自己効力感が高まり、他者を尊重した行動につながることを期待する。

<地域の行事に参加例>

日田市川開き観光祭や千年灯り前後の清掃活動、施設の夏祭り等の行事、あしながPウォーク、障害のある子ども達を対象としたデイサービス、本校青少年赤十字クラブ主催歳末一人暮らしの高齢者宅へお餅配布、オレンジカフェ日田（認知症高齢者カフェ）他

d. 健康教育

4年生は、「健康日本21」について学習するだけでなく、大分県や日田市の現状もインターネット等を活用し学習している。また、5年生は、市役所における臨地実習で「健康ひた21」の現状や取組みを学習している。

平成27年3月報告の「健康ひた21」によると、高齢期における重点項目の3項目は平成19年と比較すると、全て悪化傾向となっている。そのため日田市は、運動推進と食生活の改善に力を入れて取り組んでいる。

重点項目	目 標	比 較
栄養・食生活	おいしく楽しく食事ができ、偏らない食生活ができる	悪化傾向

運動・身体活動	日頃から意識して体を動かすことができる	悪化傾向
こころの健康	趣味や楽しみを持ち、自分の役割や楽しみの再発見ができる	悪化傾向

*引用：大分県日田市 健康ひた21計画（平成27年～31年）

そこで今年度の健康教育では、特に高齢者の運動について改善するきっかけ作りになることを目指し、ウォーキング等の運動推進を行う。また、日田市の場合、高齢者だけでなく、学童・思春期の運動についても項目によって、結果は悪化している。そのため、自分自身の健康維持増進のためにも運動に取り組む。これらの取り組みを通して、住民の健康増進活動に貢献するとともに、社会人基礎力の特に「実行力」「計画力」「発信力」を鍛える機会とする。

* 高校生の結果のみ抜粋

指 標 名	平成19年	平成24年	達成状況
身体を動かすことが好きな人の割合	84.3%	46.6%	悪化
週に3日以上運動する人の割合	63.0%	66.7%	改善
自分の好きな運動があり、実施している人の割合	46.8%	44.4%	悪化

*引用：大分県日田市 健康ひた21計画（平成27年～31年）

①運動に関する講演及び実技指導（1～5年） …新規

大学講師を招き、運動の効果や効果的な歩き方の実技指導を受け、正しい知識と歩き方を習得する。この内容を踏まえ、自分達も運動を実施した上で、特に4・5年生は健康教育に活かす。

②ウォーキング推進活動（4年） …新規

7～10月：ウォーキング体験、動画作成

上記①終了後、日田市が作成したウォーキングマップをもとに学生もグループ毎に歩く。

そして、感想などを入れたPR用の動画を作成する。この動画を活用して、住民にウォーキング等の運動を推進していく。なお動画は、グループで1本作成する。作成にあたって、情報処理担当教諭と連携し、授業の中で撮影方法の説明や動画作成を行う。

11月（完成した動画を地域に向けて発信する前）：発表会

ウォーキングを指導していただいた講師・日田市役所健康保険課・西部保健所・SPH運営指導委員の皆様を招待し、グループで作成した動画の発表会を開催する。関係者に対して発表するだけでなく、地域住民も招待する予定である。学生の発表後、再度、講師による講演及び実技指導を受ける。（住民も体験）なお、他学年の聴講は、11月上旬の学園祭の中で行う。

③臨地実習／日田市役所、教育学演習／咸宜大学（日田市高齢者教室）（5年）

対象者から内容の希望がなければ、健康ひた21の高齢期の重点項目である「食」「運動」「こころの健康」に関する内容で実施する。市役所や咸宜大学における健康教育は、臨地実習や講義の一貫で行う。その為、準備時間は、可能な限り授業時間の中で確保する。

④近隣寺院における健康教育（5年）

上記③を改善し、永代経等の行事に集まった門徒を対象に健康教育を実施する。

<活動のねらい>

	キャリア講座
5年	看護師として働く自分や卒業後の生活をイメージし、目指す将来像に近づく様に努力するきっかけ作りの場とする。

	ボランティア活動	健康教育
1年	本校三綱領「努力精進、明朗融和、感謝奉仕」を説明し、浸透を図る。 地域で行われている活動を知る。	授業を通して、健康日本21の概要を知る。 自分自身の健康増進のために体育以外に運動する。
2年	ボランティア活動を通して、他者を尊重することの大切さを意識し、自分の果たす役割を考え行動する。	授業を通して、健康日本21の概要を知る。 自分自身の健康増進のために体育以外に運動する。
3年	看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。	授業を通して、健康日本21の目標を達成するための体制を知る。(大分県・日田市がそれぞれ目標設定している等) 運動の効果を学習する。そして、自分自身の健康増進のために体育以外に運動する。
4年	状況を配慮した上で、看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。	授業を通して、健康ひた21の取組み及び日田市の現状を知る。 運動の効果及びウォーキング方法を学習し、地域住民に対して発表できる。
5年	状況を配慮した上で、看護の学びを生かしたボランティア活動を行う。	臨地実習(日田市役所)で、健康ひた21の取組みに参加し、グループで協力して、健康教育を実施する。終了後は振り返りを行い、改善点を明らかにする。そして、咸宜大学や寺院における健康教育では、前回の気付きをつなげ、より改善された健康教育を実施する。

評価

1. 習得させたい能力と学年別目標

豊かな人間性				
A P U国際学生や異学年と交流を通し、文化や価値観等の多様性を理解し、豊かな人間性を養う。				
	主体性	協調性	自己肯定力	倫理性
	指示待ちではなく自らすべきことを見つけ積極的に取り組む。 目標を設定し、確実に行動する。 失敗を恐れずに一歩踏み出す。	協力してもらう為に周囲の人を上手に巻き込む。 相手の意見を尊重し、周囲と協力しながら取り組む。	自分に自信を持ち、目標達成に向けて行動する。	絶えず相手の立場に立って対象に不利益や苦痛が生じない様に行動する。
5年	具体的な目標を設定し、確実な計画を立て、必要な人とのを集めて目標達成のために行動する。	2年生や1年生への助言をする際、互いの意見を尊重し協力して発展性のある助言ができる。	自分に自信を持ち、1年生への手洗い指導の助言や2年生のA P Uの体験発表での助言を行う。	相手の立場に立って、対象に不利益や苦痛が生じない様な言動や行動ができる。
4年	来年は最高学年になるという自覚を持って指示待ちではなく、次の行動を考えて準備をする。	生誕祭や校父母祭などで他の見本となるような落ち着いた振る舞いができる。	基礎課程で深めた自己理解と自信をもって色々な事業に取り組む。	相手の立場や気持ちを配慮した行動ができる。

3年	3学年縦割り活動や3学年交流会の中でリーダーシップをとることができる。失敗を恐れず計画を立て、率先して実行する。	3学年縦割り活動や3学年交流会の中で下級生の意見にも耳を傾け皆が参加できるように調整する。	1つ1つ事業を体験する中で基礎課程の最高学年であるという自覚を持って行動する。	基礎課程最高学年として相手の立場を尊重した態度が心がる。
2年	A P U国際学生と積極的に会話し、日本以外の国の文化の違いやその国の医療について知る。失敗を恐れず英語で挑戦する。	班での調べ学習や、発表に向けて、班で協力して行うことができる。	それぞれの事業において自分なりの成果を見つけられる。	相手の言う内容をよく聞き、理解しようと努める。食や文化の違いも理解する。
1年	異学年交流の中でわからないことや心配な事を上級生に質問したり話すことができる。	先輩からの意見や助言を素直に聞き入れる事ができる。	宗教の授業などから自分の課題を見つけられる。	宗教の授業で命の大切さについて学ぶ。

課題解決能力				
専門の知識・技術を身につけ、課題を解決できる能力を養う。				
	課題発見力	計画力	創造力	
	現状を分析し、課題を明らかにする。	課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備することができる。計画的に家庭学習を行う。	新しい価値を生み出す。何事にも興味を持ち、自分の事として考え、他人任せにしない。	
5年	状況を判断し、自己の課題を見いだすことができる。既習の知識・技術を活用して、課題解決を図る。	自己の目標を明確にし、目標達成に向け意欲的に学習する。国家試験に向けた計画的な学習を行う。	課題解決に向けて最善の解決方法を見だし、取り組むことができる。	既習の知識・技術を活用して、自分自身で工夫、応用した態度や行動がとれる。
4年	状況を判断し、自己の課題を見だし、課題を解決しようとする行動がとれる。	目標達成に向け意欲的に学習する。学習計画を立て取り組むことができる。	主体的に授業に参加して、自分の考えや意見を他者に説明できる。	責任ある行動がとれる。
3年	自己を振り返る事で、自己の課題を見いだすことができる。課題を解決しようとする行動がとれる。	学習計画を立て取り組むことができる。	主体的に授業に参加して、自分の考えや意見を他者に説明できる。	自らの行動に責任がもてる。
2年	自己を振り返る事で、自分の不足しているところに気づき、課題をみつけることができる。	主体的に事前課題に取り組み、授業に参加することができる。家庭学習を60分～90分以上、習慣として行う。	意欲的に授業に参加して、自分の考えを他者に説明できる。	
1年	分からないところを見つけ、他者に伝えることができる。	事前学習の必要性が分かり、授業にのぞむ。家庭学習を60分～90分以上行う。	意欲的に授業に参加して、「楽しい」や「分かった」と感じ、興味をもつことができる。	

社会人基礎力		
地域との交流やボランティア活動に主体的に関わり、社会人基礎力を身につける。		
発信力	自己管理能力	ストレスコントロール力
相手の意見を最後まで聞き、	生活習慣を自ら整えることができる。	ストレスを自覚し周囲に支援を求め、緩

	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	ルールや人との約束を守ることができる。	和することができる。 一過性、当然の事と捉え重く受け止め過ぎず、すべきことに取組むことができる。失敗しても粘り強く取組む。
5年	時(タイミング)・場・人に合わせて、発言できる。	- 1～5年共通 - 欠席0日。 三食きちんと食べる。	セルフコントロールして体調を整え、実習や学校生活を過ごすことができる。
4年	相手の真意を考えていったん受け止めた上で、自分の考えや気持ちが伝わる様に話すことができる。		改善のための努力を行い、同じ失敗を繰り返さない。
3年	相手の良い部分を認めた上で、自分の気持ちを伝えることができる。		場に応じた挨拶や言葉遣いができる。
2年	記述や言動により、自分の気持ちや考えを表出できる		提出物の期限を守る。
1年	相手の話を最後まで聞くことができる。 「わかる」「わからない」の意思表示ができる。		明るく元気のよい挨拶ができる。
			実習、就職活動、国家試験等のストレスに対して、粘り強く取組む。 多重の課題をためてストレス状況を作らない様にする。 ストレスを感じていることを自覚し、周囲に支援を求めることができる。 自分にあったストレス発散方法見付ける。 心配ごとや悩みを友達・家族・教員に相談できる。

2. 評価方法及び達成基準

習得させたい能力	評価方法	達成基準
豊かな人間性	<事業> 1～3学年交流会、3学年縦割り活動、1年手洗い指導、APU国際学生との交流会 <評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。	主体性に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。 感想の中に「積極的にかかわれた」「自分から～してみた」等の記述がある。
	<事業> 1～3学年交流会、3学年縦割り活動、1年手洗い指導5年生助言による、APU国際学生との交流会 <評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。	協調性に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。手洗い指導については事前準備からについても問う。 感想の中に「協力して行った」「人の意見を聞いて修正した」等の記述がある。

	自己肯定力	<p><事業></p> <p>① 1～3 学年交流会② 3 学年縦割り活動③ 生誕祭④ 校父母祭⑤ 宗教授業</p> <p><評価方法></p> <p>①② 4 段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。</p> <p><評価方法></p> <p>③④ 自由記載の感想文とし、目標に合致するキーワードの数を 1 年生と 5 年生で比較する。</p> <p><評価方法></p> <p>⑤ 2 学期の終わりの授業評価アンケートの際に 4 段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度を調査する。</p>	<p>①②⑤に関しては自己肯定力に関する 4 段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が 80%以上となる。</p> <p>①②の感想の中に「経験を生かして～できた」「満足している」等の記述がある。</p> <p>⑤の感想の中に「自分は尊い」等自分を認める記述がある。</p> <p>③④に関してはキーワードが 1 年生で 5 つ以上、5 年生で 7 つ以上が 80%以上となる。</p>
	倫理性	<p><事業></p> <p>① 校父母祭② 宗教授業③ 1～3 学年交流会④ APU 国際学生との交流会</p> <p><評価方法></p> <p>① 自由記載の感想文とし、目標に合致するキーワードの数を 1 年生と 5 年生で比較する。</p> <p>②③④ 4 段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。</p>	<p>①に関しては倫理性に関するキーワードが 1 年生で 5 つ以上、5 年生で 7 つ以上が 80%以上となる。</p> <p>②③④に関しては倫理性に関する 4 段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が 80%以上となる。</p>
課題解決能力	課題発見力	<p><事業></p> <p>アクティブラーニング、研修、特別講義</p> <p><評価方法></p> <p>① 授業後（目的意識、達成感、課題解決）にアンケート調査（自己評価）を実施する。</p>	<p>① 授業後の評価を 4 段階で評価して、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が 80%以上となる。</p> <p>② 研修、特別講義の理解度について、4 段階評価して、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が 80%以上となる。</p> <p>③ 学習時間が前学期より増加する。（看護学科生徒の 80%以上の学習時間が増える）</p> <p>④ 1 年間で身についた力が、4 段階評価の「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が 80%以上となる。</p>
	計画力	<p>② 研修・特別講義終了後にアンケート調査（自己評価）を実施する。</p>	
	創造力	<p>③ 家庭学習時間調査を学期ごとに実施。</p> <p>1 年生～3 年生の学習時間を調査して、学年および学期ごとに比較する。</p> <p>④ 育てたい力「課題発見力」「計画力」「創造力」について、身についた力を年度末に自己評価する。</p>	
社会人	発信力	<p><事業></p> <p>社会人基礎力調査、ボランティア活動及び健康教育</p>	<p>① 授業以外の発信の場の推進</p> <p>生徒学生が、部活動・各種委員会・ボランティア活動のいずれかに参加</p>

<p>基礎力</p>	<p><評価方法></p> <p>①発信の場の推進：異なる年齢や価値観を持った人と関わる機会の有無について、部活動または委員会加入の有無・ボランティア活動参加の有無について調査する。（授業は課題解決能力で評価する為除く）</p> <p>②終了後の自己評価表、健康教育については他者評価表も含めて、対象及び指導者、一緒に取組んだ仲間を含めた他者に対して、発信力がどれだけ発揮できたか5段階で評価する。また、工夫した点、うまくいかなかった点、学び等の自由記述を分析する。</p> <p>③社会人基礎力／発信力の伸び率調査</p>	<p>する割合100%を目指す。</p> <p>②学年目標の達成度、ボランティア活動・健康教育の自己評価表の中の発信力の項目について、5（十分当てはまる）・4（まあまあ当てはまる）を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>③生徒学生の自由記述を分析し、発信力が発揮できなかった場面や理由を明らかにする。</p> <p>④社会人基礎力／発信力が、2回目の調査時に上昇する割合が80%以上となる。</p>
<p>自己管理力</p>	<p><事業></p> <p>社会人基礎力調査、生活習慣調査、健康教育（運動に関する講演、ウォーキング等の実施）</p> <p><評価方法></p> <p>①社会人基礎力／規律性の伸び率調査</p> <p>②学年目標の自己評価と遅刻・欠課・欠席状況の状況の比較</p> <p>③運動に関する講演・ウォーキング等実施：運動の効果に関する理解度、生徒学生の運動習慣の状況（健康ひた21の指標を利用）を調査する。 *健康ひた21の指標：体を動かすところが好きな人の割合、週に3日以上運動する人の割合、自分の好きな運動があり実施している人の割合</p> <p>④生活習慣調査：生活習慣について振り返り、1回目調査ではできていないことを自覚、2回目調査では改善を目指す。</p>	<p>①社会人基礎力／規律性が、2回目の調査時に上昇する割合が80%以上となる。</p> <p>②学年目標の達成度、運動に関する講演内容の理解度について、5（十分当てはまる）・4（まあまあ当てはまる）を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>③運動習慣は、2回目調査時に上昇する割合が80%以上となる。</p> <p>④生活習慣調査は、改善した割合が80%以上となる。</p>
<p>ストレスコントロール力</p>	<p><事業></p> <p>社会人基礎力調査、5年キャリア講座、健康教育（ウォーキング等の実施）</p> <p><評価方法></p> <p>①社会人基礎力／ストレスコントロール力の伸び率</p> <p>②5年キャリア講座：終了後のアンケート調査により、就職後の生活をイメージする・仕事とプライベートのバランスをとることの必要性が理解できたか5段階で評価する。</p>	<p>①社会人基礎力／ストレスコントロール力が、2回目の調査時に上昇する割合が80%以上となる。</p> <p>②学年目標、キャリア講座の目標や内容の達成度について、5（十分当てはまる）・4（まあまあ当てはまる）を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>③生徒学生のストレス対処方法とその効果は、自由記述の内容を分析して現状を明らかにする。</p>

	③自由記述より、生徒学生の現在のストレス対処方法、指導を受けたウォーキング等を含め実際にストレスが発散に役立ったか調査する。
--	--

卒業生の社会人基礎力調査について

平成27年度3月に卒業した学生達について、就職後の社会人基礎力の自己評価と就職先の管理者による他者評価により、現状を明らかにする。

5. 実施体制

<研究内容番号>

1. 豊かな人間性	①人権教育（校父母祭、宗教の授業、ナイチンゲール生誕祭）
	②異学年交流
	③APU国際学生との交流
2. 課題解決能力	①アクティブラーニング
	②特別講義（専門職の話を聴く会、認定看護師による講義）
3. 社会人基礎力	①キャリア講座
	②ボランティア活動
	③健康教育

(1) 研究担当者

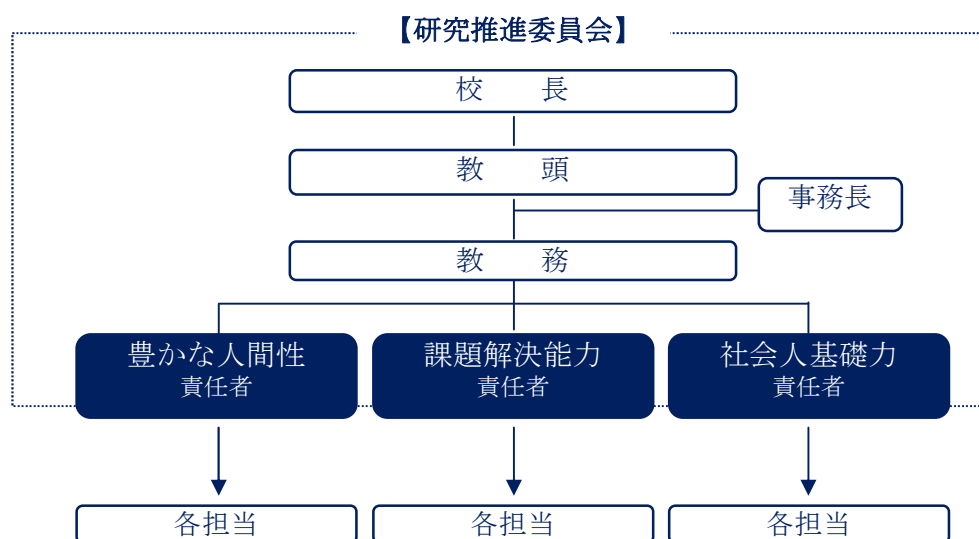
氏名	職名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
石井 裕子	教頭	看護、全研究項目の把握・確認
松井 由美	基礎課程主任	看護、2. 課題解決能力班責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会人基礎力班責任者
佐竹 小桐	教諭	看護、3年担任、1. 豊かな人間性班責任者
田代 あさみ	教諭	看護、1年担任、1
五島 忍	教諭	看護、5年担当、1
武石 千鶴	教諭	看護、4年担当、1
武内 和代	助教諭	看護、3年副担任、2
竹井 日登美	教諭	看護、5年担当、2
梅木 朋恵	助教諭	看護、5年担当、2
小野 智恵美	教諭	看護、3年副担任、3
高倉 敏之	助教諭	看護、2年副担任、3
大鶴 翔太郎	助教諭	看護、4年担当、3
波多江 裕一	教諭	国語、1年担任、3
栗野 里美	教諭	保健体育、2年担任、1
齋藤 貴志	教科主任	地歴公民、2年担任、2
石井 浩之	教科主任	数学、3年担任、2

中川 智法	教科主任	宗教、2年福祉科担任、1
吉田 太郎	教科主任	国語、3年普通科担任、2
五島 英司	教科主任	理科、3年普通科副担任、3
石橋 健一郎	教科主任	英語、1学年主任、1
宇野 真悟	教科主任	情報、2年普通科担任、2
穴井 征樹	事務	高校事務、経理事務
諫山 明美	事務	専門課程事務、経理事務

(2) 研究推進委員会

氏 名	職 名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
山本 省悟	校 長	SPH事業を総括
岡崎 浩晴	教 頭	理科、校長の補佐、各研究担当教員に指導・助言
石井 裕子	教 頭	看護、全研究項目の把握・確認
相良 明弘	事務長	経理事務の責任者
長木 武士	教務主任	理科、2
五島 英司	特別活動主任	理科、青少年赤十字顧問、3
平 善浩	キャリアガイダンス主任	国語、3
春末 聡	庶務主任	宗教・国語、1
日野 浩太郎	広報主任	福祉、記録・広報
石橋 健一郎	1学年主任	英語、1
吉住 和恵	2学年主任	理科、2
立花 圭	3学年主任	英語、1
草野 浩輔	教 諭	地歴公民、広報
佐竹 小桐	教 諭	看護、3年担任、1.豊かな人間性班責任者
松井 由美	基礎課程主任	看護、2.課題解決能力班責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3.社会人基礎力班責任者

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
豊かな人間性	全学年 宗教の授業(1~3年は4~2月、4・5年は4~11月)											
	1年	ナイチンゲール生誕祭	異学年交流	異学年交流		異学年交流	校 父 母 祭 法 要	異学年交流		異学年交流		
				実習について				手洗い指導				
	2年			大学連携				異学年交流			大学連携 異学年交流	
				APU交流				実習について			APU交流 5年発表	
	3年			異学年交流				異学年交流				
実習について		実習について										
4年												
5年					異学年交流 2年発表聴講 1年指導							
課題解決能力	全学年 アクティブラーニング											
	1年	大学連携	大学連携	病院連携			病院連携	大学連携	地域・実習施設と連携 1年9月老人福祉施設実習 2年10月病院実習 3年6月こども園実習 7~8月病院実習 11月老人福祉施設実習 4年2月病院実習 5年6~11月 病院実習 訪問看護ステーション実習 市役所実習			
		協同学習	協同学習	専門職の話			感染・演習	協同学習				
	2年			病院連携								
				清潔・演習								
	3年											
4年												
5年												
社会人基礎力	全学年 ボランティア活動											
	社会人・生活調査								社会人調査			
	1年			講演及び実技指導					地域・大学連携			
									4年発表聴講			
	2年								地域・大学連携			
									4年発表聴講			
3年							地域・大学連携					
							4年発表聴講					
4年	講演及び実技指導	ウォーキング推進活動					地域・大学連携					
							発表					
5年			地域連携	病院連携	地域連携							
			健康教育	キャリア講座	健康教育							

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載